認知症高齢者の思いを看護に生かす反転授業

徳島大学大学院医歯薬学研究部
療養回復ケア看護学分野
南川貴子、田村綾子、日坂ゆかり

はじめに

徳島大学医学部保健学科看護学専攻では、平成26年度より、2年次の高齢者援助論の授業において、「認知症高齢者の思い」をテーマに平成26年より反転授業を取り入れたので、この授業について紹介する。

科目概要

【科目】高齢者援助論

医学部保健学科看護学専攻2年生の必修科目

【科目概要】加齢による機能低下に加え、様々な疾患を抱える高齢者を包括的に理解し、高齢者のQOLの向上をも座した援助の在り方と具体的な援助技術について学習する。

【目標】

1. 加齢に加え病気を抱える高齢者の心身の特徴を理解する。
2. 健康問題をもつ高齢者のQOLを目指し、援助の在り方を検討する。
3. 高齢者に特有の健康問題に対するアセスメント方法、具体的援助方法が理解できる。

【受講者数】

平成28(2016)年度　72名

今回の授業の紹介

【該当授業の時間数】

高齢者援助論内の3時間　「認知症の患者の看護」

【該当授業の目標】＊赤字の部分が反転授業

1. 認知症の定義がわかる。
2. さまざまな認知症の特徴と症状について説明できる。
3. 認知機能の評価方法がわかる。
4. 認知症の特徴に配慮したコミュニケーションの原則を理解し、状況についてどのような対応が望ましいか考察することができる。
5. 認知症の患者の思いの一部を知り、どのような対応が望ましいか検討することができる。
   1）認知症高齢者の思いを理解する。
   2）認知症患者に対してどのような看護を行うべきかを考察する。

今回の授業の背景

最新の調査では2012年時点で462万人と65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症といわれている。

認知症を発症した高齢者について、従来は「認知症になった自覚がない。感受性も衰える」といわれてきた。しかし、近年「認知症患者は自分の置かれた立場に困惑している」ことなどが明確になってきた。

今回の授業では学生に、「患者さんの思いを尊重した支援が重要」であると考え、手記（患者さんの言葉）を中心に様々な情報源から患者の思いに近づき、看護に生かせるようになってほしいと考えた。

【対象学生数】72名71名の回答あり（1名欠席）

【事前レポートの提出率】98.6％（1名未提出）であった。

【実施直後の感想より】認知症グループワーク終了後に、対象学生72名に対して、3行感想を書くように促した（毎回講義時に出席確認をかねて行っている）。なお結果の公表については学生に許可を得ている。

授業の進め方（2016年）

【事前学習】レポート課題の提示
文藝春秋社発行　文藝春秋2014年8月号　P290～300「11人の認知症患者の手記」やその他の文献、新聞、インターネットの記事などを参照して以下のテーマでレポート作成（A4用紙1枚に手書き）
①認知症高齢者はどのような思いを持っているのか。
②看護職として、認知症高齢者に対してどのような看護を行いたいか
2016年11月9日に課題提示（11月22日締切）

【対面授業】 講義-12月1日　2時間
認知症看護に関する講義

【グループワーク・発表】12月8日　1時間
30分間　グループワーク（6名のグループ）
20分間　発表（5分程度で一部のグループ）
5分間　総評・まとめ

学生の感想より

人はみな老いてゆくということを認識し、自分か認知症になった時にどう思うかを考えて、その人のことを理解することが大切だと思った。
認知症高齢者は、すべてを忘れるのではなく、少しわかるからこそ孤独で、 つらいものなんだと思った。
レポート・グループワークを通して認知症高齢者が「迷惑をかけてしまっているということを分かっている」ということをより実感し、心が痛くなった。
患者さんに自分の家族にされたらイヤだと思うことは絶対にしてはならないと改めて思った。
（反転授業で）認知症高齢者の方は私たちが想像していないようなたくさんの思いを抱いていることがわかり、看護を行う上ではその人を理解し、温かく接することが重要であると思った。
病気だけでその人の能力を見定めるのではなく、きちんと会話し向き合って人としてケアを行うべきだと思った。
世間一般で言われている認知症患者のイメージと、手記で語られている本当の姿は全く異なっていた。
認知症の患者の声を聞くことで、一気に（認知症の人への）考えが深まった。

良かった点（学生の感想）

【学生の感想】

今まで意識してこなかった認知症高齢者の抱える気持ち、看護の仕方がわかってきた。
グループワークで他の人の意見を聞けて良かった(32名が記載)。
グループワークをすることで、自分で考えた時には出てこなかった考え、意見があって自分の考えが広がったように思う。

【教員の感想】

レポート期限を長くすることで提出期限に対する不満は聞かれなかった。
グループワークでは、参加・発言していない学生がほとんどおらず、積極的な発言が目立った。

反転授業で、学びが深まっている。

悪かった（難しかった）点

【学生の感想】

他の講義とレポートが重なり、レポートを配布した時点で、学生にから「また事前学習」とため息が漏れていた。
グループワークの時間が30分では短いという意見があった。

【教員の感想】

レポートの手記以外の情報源は、インターネットでの検索した内容が　ほとんどを占めた。
課題が限られていたためか、発表内容の独創性が乏しかった。

反転授業の実施時期の調整が必要
参考文献の具体的な紹介が必要

今後の課題

　認知症高齢者に対しての反転授業を行ったが、反転授業によって「学びは深まっている」と考えられる。一方、一部の学生から「また事前学習」、「アクティブ・ラーニングや反転授業が多くなってきて、試験前に事前レポート、グループワークや発表、まとめのレポートが集中してたいへん」という声が聞かれていた。反転授業は学生にとって効果のある授業形態ではあると考えるが、反転授業で効果を出すためには、教員間で連携を取って学生が負担と感じないように、時期の調整などを行ってゆく必要性が示唆された。